

「もだちどうし

倉 橋 惣 三

本榮位子供向きお菜

厚生科學研究所
國民榮養部 佐々木理喜子

□前の號で、幼稚園の樂しさの一つとして、遊び相手のゐて呉れることを數えて置きました。實際、これが、あの樂しい家庭でも得られない、幼稚園でこそその樂しさでせう。

□さて遊び相手のゐて呉れることは、たゞ樂しいだけではありません。そこには、いろ／＼と、かけがへのない教育上のねうちがあるのです。

□その一は、ともだちどうしは、ものゝ見方、感じ方が同じであるために、一切の興味が、ひとりでもつよりも強められてゆくことです。若しも、自分と見方、感じ方の方向も程度も異つてあるおとなばかりの中に置かれてゐるとしませう。子どもの興味は、反対され、しりぞけられ、おさへられることはないとしても、助けられ、強められてゆくことはあります。

せん。そんなものはつまらない。そんなことはうれしくもない。と口へ出して言はないにしても、同じ心を添へあふことはない譯です。一匹のどんぼにしても、みんなで追ひまわすところに、ひとりで見てゐるにくらべて、如何に興味の強められるでせう。

□幼児が互に話を聞いてゐると、賛成しあつてゐる時でも、反対しあつてゐる時でも、眞剣に、むきに、熱中しきつてゐる様は、まことに、ほえましい以上のものです。おとなとは決して、こうした力強い話あひは出来ません。おとなの方では話をあはせて呉れて、あはせて呉れれば呉れる程、子ども

梅雨の頃になりました。毎日の御辨當がいたみ易くなりりますので次の點を氣を附けて下さい。

- (1) おさいは成るべく水氣の少ないもの
- (2) 前日の煮物は必ず一度煮直すこと
- (3) 御飯とおさいは、兩方とも冷して入れるか、或は兩方共、あつい内に入れること。

(4) 生の野菜を入れぬこと。

【1】馬鈴薯のピーナツ和へと煮干の佃煮

材料 馬鈴薯四〇瓦 人參二〇瓦 ピーナツバタ四瓦 煮干一二瓦 以上で蛋白質八・〇瓦 溫量一〇八カロリー

作り方 馬鈴薯と人參は程よく切り、軟く煮て薄味を附けます。ピーナツバタを、この煮汁で少し溶き、野菜を和へます。汁氣はなるべく少く。煮干は小さいのを用ひ一匹を二つにして濃味に、カラ／＼ぶつかりあひが一ぱいに出来ます。そこ

で、力も盛り上つて來ることです。おとなは、相手をするために相手をするのですから、謂はどうその力です。そのうそ、の力とぶつかつても、ほんとうの力の出よう筈はありません。おとなはそうして、子どもの力を尋き出そうとしてゐるので、すが、結果は却つて、半分しか出させないこどもになりました。

□子どもが互に角力をしてゐる時、子どもが互に馳けつくらをしてゐる時、その真剣の様子は、見てゐても、おそろしい程です。多分、子ども自身としても、自分ではない程の力が出来るのでせう。そして、一回毎に、力が強められてゆくといつていゝのです。

□その三は、ともだちどうしは、助けあふ心も起り、助けあふことも出来るのです。幼い子どもに、斯うした心はないものゝやうに思ふ人もあるかも知れませんが、決してそうではありません。おとなよりも、却つてその心が豊なのですけれども、それを引出すのに相當な相手が

ゐないから出ないです。又、相手が自

ます。

2. キヤベツと干海老の炒煮

材料 キヤベツ五〇瓦 人參二〇瓦 干えび一入瓦 油五瓦 以上で蛋白質八・三瓦 溫量一〇二カロリー

作り方 キヤベツと人參は纖に刻み油でよく炒め、少々のお湯を加へて煮ます。

砂糖、醤油で味を普通に附けます。干えびはきれいに水洗ひしてから野菜の中に入れ、一緒にしてカラ／＼に炒ります。

【3】そら豆のロール(お八つ)

材料 そら豆(剥いたもの)三〇瓦 砂糖七瓦 メリケン粉二〇瓦 ベーキングパウダー少々 以上で一五八カロリー

作り方 そら豆を茹で皮をとり、潰して餡を作り砂糖を加へてかた目に練ります。メリケン粉にベーキングパウダーを入れて、フライパンで皮を焼き、此の中に入れて、そら豆餡を入れて巻き、程よく切ります。

□以上、たつた三つの方面を見ただけでも、ともだちどうしの教育力は、大きいではありませんか。